

収入不安定、退職金なし、年金はすすめの涙!!

ないないづくしのフリーランスがどう生きていけばいいのか、専門家と先輩に教えてもらいました。

書名 『マンガ 自営業の老後』	
著者 上田惣子	2017年4月14日(金)発売
定価 本体1,180円+税	
ISBN 978-4-905073-90-1	
判型 A5判並製 216ページ	
発行 文響社	

ライター、イラストレーター、カメラマン、デザイナー、プランナー、ITエンジニア、ミュージシャン、カフェオーナー、ネイリスト、コンサルタントなどのフリーランス(個人事業主)が、老後貧困に陥らないために、そして、死ぬまで黒字でいるために何をすればいいのか。みんなが苦手な年金や税金の話を、超絶わかりやすく体感できる実用コミック。



内容

20代のころから寝る間を惜しんで仕事をしてきたのに、47歳くらいから3、4年間、わけもなく依頼が減ったという著者の上田さん。病気休業したことに加え、古い付き合いの編集者たちが、どんどん偉くなって、現場から離れたというのも原因と考えられる。ぼんやりしている上田さんは、仕事が減って、収入が落ち、貯金もなくなっているのに、しばらくまったく気がつかず、のほほーんと暮らしていた。1年がすぎ、2年がすぎ、確定申告の数字を見た夫の指摘により、ようやく「あれ？ 通帳にお金ない」と気がついたのだ。

もともと振り込みや通帳チェックなどの事務手続きが大の苦手。確定申告も何度滞納したことが。収入や支出も、貯金も、霧がかかったようによく見えない状態。不安なだけけれど、何がどう不安なのかもよくわかっていなかった。

でも、ただひとつ、「老後」の2文字への不安だけは確信していた。「75歳以上長生きしてしまったら、マジやばい……。75歳で死にますように。死なせてください!!!」と本気で神様に祈っていたほど。

自営業は定年がない。年をとっても小銭を稼ぐことができる。死ぬまで働ける。それは事実です。メリットです。でも一方で、自営業は仕事があれば無職。依頼がなくなったら廃業。これも事実なのだ。

本書では、53歳・個人事業主の上田さんが、先輩や専門家の知恵を借りつつ、老後への不安に向き合っていく。

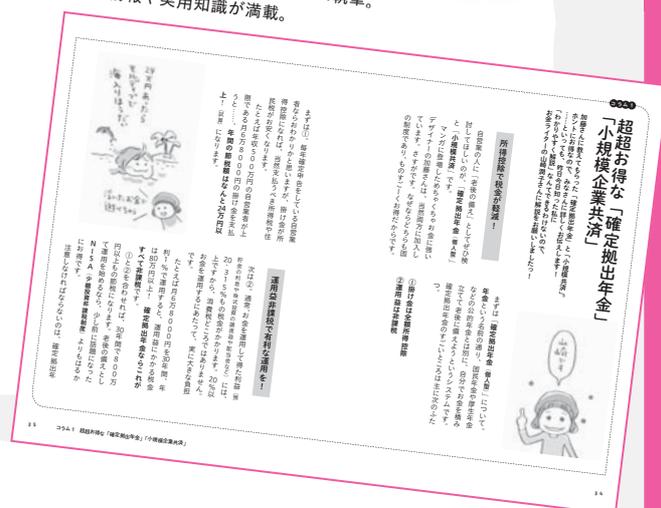
専門家の先生方のアドバイスをしかと受け止め、確定拠出年金を始めた、保険を見直したり、小規模企業共済に加入したり。その実践ルポの一つひとつが具体的で、まだ何も備えていない読者にとっては役立つ情報が満載。

老後の備えだけでなく、「病気と仕事」「自営業者が家を買うまで」「一生黒字でいられる会計の知識」などいま現在の幸せや仕事への心構えを考え直せるマンガが、心に深く刺さる。

発売前から、話題沸騰の本書。死ぬまで幸せでいたい自営業者は、ぜひチェックしてみてください！



お金ライター山崎潤子さんがコラム執筆、最新情報や実用知識が満載。



プロフィール

イラストレーター歴25年の53歳。これまで雑誌・書籍でお金関係のイラストやマンガを大量に描いてきたのに、お金の知識とセンスが欠落しており、将来設計をしないまま50代に突入。事務手続きも大の苦手。でもめ切りは絶対に守るまじめな働きマン。共著に『マンガ 女のお金の超常識』『マンガ 読むだけでチョットよくなるあなたの英会話』『8歳からのお給料袋』(いずれもマンガ担当)などがある。

同業者の夫と猫4匹と暮らす。

ブログ「ハラいっぱいだよ 困ったもんだ」

<http://ameblo.jp/nekonobitti/>



お問い合わせはこちらをお願いします

株式会社 文響社 広報担当

TEL 03-5575-5050

FAX 03-5575-5051

E-mail info@bunkyoasha.com

